

PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.10 2019.10.

2019年9月11日第149回PCC開催



地域の緩和ケア紹介

今回は、当医療センター緩和ケア科部長 高橋尚子医師より、当医療センターの緩和ケア病棟の歴史と施設を紹介させていただきました。院内の医師・看護師らにより発足した緩和ケア

カンファレンスの活動と、患者さん・ご家族の要望を集めた署名によりを受け、2000年に緩和ケア病棟が開設されました。17床あった病室は建て替えを機に18床の全室個室となり、社会のニーズに後押しされ、より苦痛の強い方に早く利用いただけるよう、苦痛症状が落ち着いた方には一度ご退院いただき、入退院を繰り返していただくケースも増えています。最期まで長く療養されたい方もおられる中、どのような形でお過ごしいただけるか、悩ましい場面も多々あります。お一人お一人の意向も大切にしつつも、医療圏に必要な役割を果たせるよう今後も検討を重ねていきたいと思えます。これらは、地域で患者さん・ご家族を支え



高橋先生

てくださる皆さまのご協力により成り立っております。是非これからも、当医療センターの緩和ケア病棟、緩和ケアチームをよろしくお願ひいたします。

PCU便り



【寄席】
病棟のラウンジにて、寄席を開催しました。

緩和ケアとはどういうものか、何を指しているのか、倫理的であることについて、など多くの示唆あるお話をいただきました。

例えば、緩和ケアは全人的アプローチをするものですが、今、日々の忙しさの中で、どこまで全人的なケアを日常のケアに取り戻していくことが出来るのか、を通して、自らも癒される、癒し癒される関係について、実例を元にお話し下さ

また、私達が携わる緩和医療の目的は、患者や家族にとつて、出来る限り良好なQOLを実現することです。QOLを考

とき、それは、本当に患者のために役立つているのか、毎日行っているケアが、自己満足でなく本当に役に立っていると言えるかどうか、忙しい中でも、だれも

がどんな状態になっても、生活している人として尊重されているかどうか、これを自身に問いつながらケアをしていくことが、倫理的なケアを行なうことにも繋がります。参加者の皆さまからも、「自分の行ないたいことが出来ない理由を、非がんとがんの違いなのかと思ひ悩んでいたが、全人的であれば、病は関係ないのだと気が付いた」「栄養士の立場から緩和ケアに対する心構えが認識でき、医療に携われる専門として、サイエンスとアートを高めていくことが使命という言葉が深く心に刻まれた」「患者の側に身を置いて、アドボケイトとしてのNSでいるのか、立ち止まって考えたい」など自らを振り返るきっかけになったという感想が多数寄せられました。

日々の自身のケアを振り返り、明日からのケアを考える、勇気をいただける

教育講演 「いま緩和ケアの本質について再考の時」

北海道医療大学 名誉教授 石垣靖子先生



ご講演でした。今後皆様と一緒に学んでいければと思います。

第150回緩和ケアカンファレンス
2019年11月13日 19:00~20:45開催予定

第150回PCCの教育講演は「行動経済学観点からみた意思決定支援(仮)」講師は、大阪大学大学院人間科学研究科准教授平井啓先生です。平井先生は、認知行動療法や行動経済学的な患者家族の意思決定についての分析など社会心理学的な研究やご講演を数々されていらっしゃいます。是非この機会にご参加ください。

なお、本講演は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。